

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間・最終 )

\_\_\_\_\_ 両城中学校区 校番 19 学校名 呉市立両城小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果を見とる目安として適切である。</li> <li>児童にも目標がよくわかる。</li> <li>子どものよさが認められたこと、成長のようすが家庭に伝わることで、家庭の協力度を高めると思う。</li> </ul>
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の手引き、キュビナ等の活用で個に応じた手立てを講じるようにされている。主体的な学習法が身につくと思う。</li> <li>振り返りについて、児童だけでなく、教師の授業や学級経営にも習慣化されているように感じる。</li> </ul>
自己評価の結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>三つの重点目標についていずれも詳細に分析されている。</li> <li>心の育成については到達度をみることは難しいと思う。自分が好きと思えてこそ、人を大切に思い感謝することができる。よさを認め合うことの自己評価の結果と分析は適切だと思う。</li> </ul>
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の課題をしぼり、さらに意欲的に継続して取り組む改善策が立てられている。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>出前授業、出前講座、二川教育プラン(中学生との交流)、異年齢との平素の生活の中でのつながり、子ども教室等々幅広く学びの場が設けられている。</li> <li>評価委員会で発表された先生方の表情が明るく笑顔が見られ、一体となって教育に当たっておられると感じた。</li> <li>いじめ撲滅について話を伺った。アンテナをめぐらし、いつでも困っていることを話せるような体制ができています。問題が起きた時の対応の仕方も適切だと感心した。</li> </ul>

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての項目において「A」評価で、目標達成に向けて、全教職員で取り組んでいることを評価していただいた。今後も取組について児童だけでなく教職員も振り返りを行い、PDCAサイクルを進めていく。</li> <li>キュビナの効果的な活用を研修等を通して教職員で共有する。時間を決める、問題数を決める等、キュビナも個に応じて活用し、主体的な学習につなげる。</li> <li>自分が好きと思えてこそ人を大切に思うことができるので、縦割り班活動等でよさを認め合う活動をさらに充実させ、自己肯定感を高める。</li> <li>困ったときにいつでも相談できる体制をさらに整え、児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。</li> </ul>
--------------------	--